

石油化学コンビナート企業群、製鉄関連企業群、穀物飼料企業群などを擁する鹿島臨海工業地帯において、鹿島港は立地企業の原材料や製品の海上輸送基地として重要な役割を担っています。

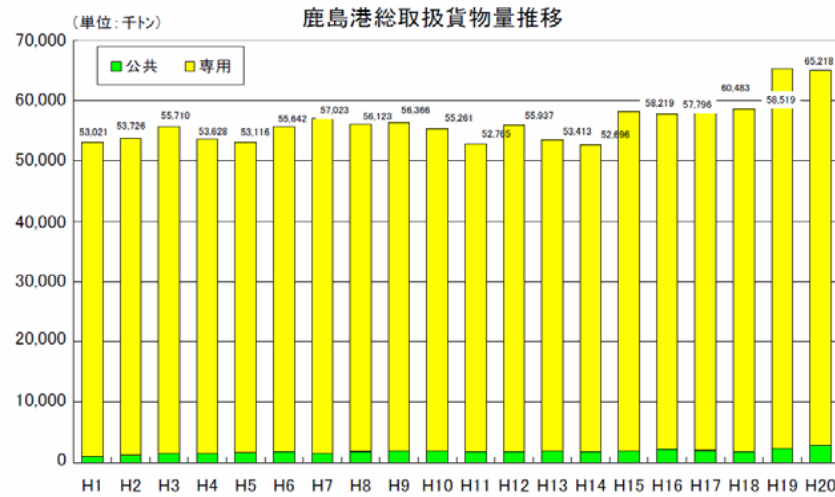
一方、近年の企業の事業再編・効率化や物流体系の見直しなどの流れから、首都・東京へ1時間余りで連絡可能な鹿島港は、これまで京浜一帯で扱われていた一般公共貨物のシフト先としての役割も期待されています。

平成18年2月には北公共ふ頭にガントリークレーンを備えた多目的バースも供用開始され、商港としての機能も充実しつつあります。

平成21年度 **鹿島港 事業概要**
国土交通省 鹿島港湾・空港整備事務所

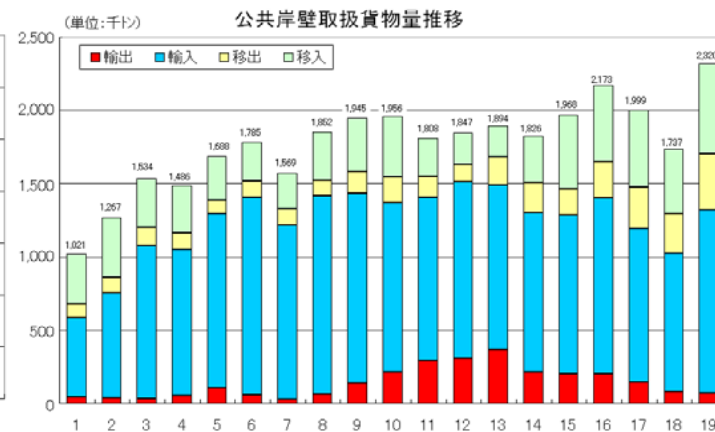
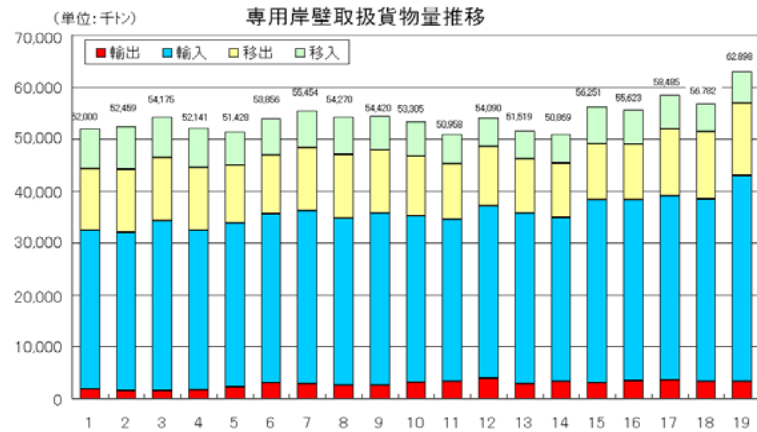
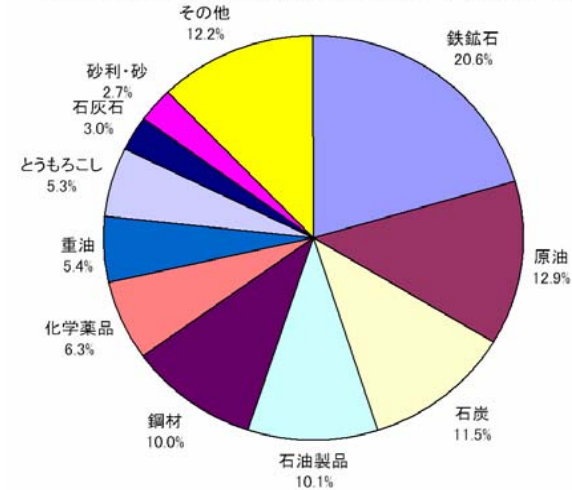


平成21年2月撮影

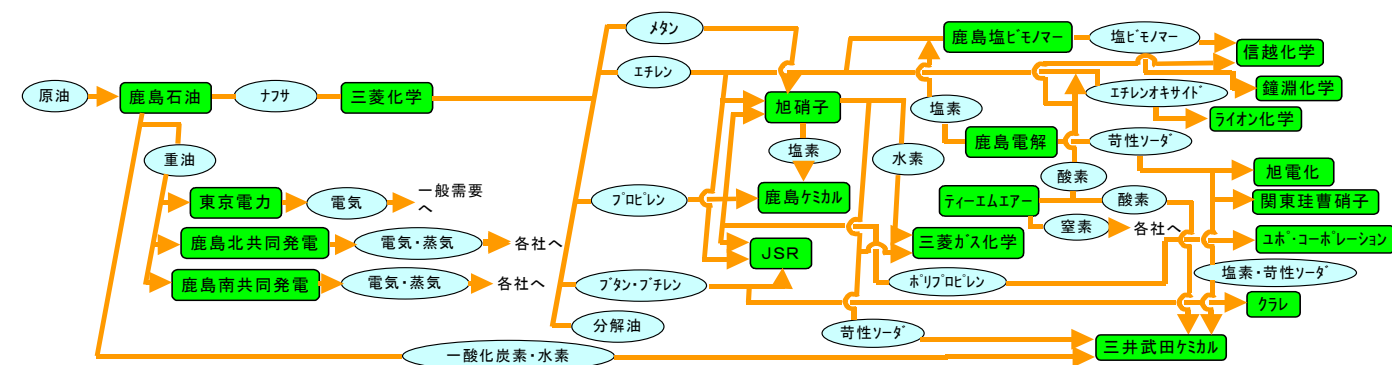


※取扱貨物量は、平成20年速報値。

総貨物量における品別別の割合(平成19年)



石油化学コンビナートにおける密接な関係の概要
鹿島臨海工業地帯の石油化学コンビナートでは、原油を起点として多数の企業が密接な関連をもって生産活動を行っています。



平成21年度の整備方針

●航行安全の確保

鹿島港の玄関である外港航路において漂砂による埋没が進行し、大型船舶の航行に支障をきたしているため、企業合理化促進法に基づいたエネルギー港湾制度により航路の整備を行います。

●大型船舶需要への対応

貨物船の大型化に対応し、臨海工業地帯の産業競争力を強化するため外港地区において大水深岸壁を整備します。

平成21年度 直轄事業費 1,110百万円
エネルギー事業費 1,200百万円



国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism. Kanto Regional Development Bureau.

Kashima Port and Airport Construction office.

TEL 0299-84-7711 FAX 0299-82-1673

http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kashima/

(平成21年4月)

鹿島港港湾計画図

鹿島港の沿革

- 1963(昭和38)年 重要港湾に指定される、起工式
- 1965(昭和40)年 中央航路掘込み開始
- 1969(昭和44)年 第1船入港
- 関税法に基づく開港となる
- 検疫法に基づく指定港になる
- 1978(昭和53)年 南公共埠頭一部供用開始
- 1991(平成3)年 南公共埠頭完成
- 1994(平成6)年 北公共埠頭建設着手
- 1999(平成11)年 北航路掘込み開始
- 2002(平成14)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、1バース目)
- 2004(平成16)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、2バース目)
- 2006(平成18)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、3バース目)

鹿島港の港湾空間の規模(平成20年5月)

港湾区域 5,212ha
臨港地区 2,494ha

入港船舶隻数(平成19年)
15,358隻

凡 例	
	航路・泊地 (既定計画/今回計画)
	防波堤 (既定計画/今回計画)
	公共岸壁 (既定計画/今回計画)
	公共耐震強化岸壁 (今回計画)
	公共物揚場 (既定)
	専用岸壁 (既定計画/今回計画)
	ドルフィン (既定計画/今回計画)
	小型棧橋 (既定計画)
	埠頭用地 (工事中/既定計画/今回計画)
	緑地 (既定計画/今回計画)
	緑地(その他緑地) (既定)
	臨港道路 (既定/工事中/既定計画/今回計画)
	道路以外の交通機能用地 (今回計画)
	その他の用地 (既定/今回計画)
	開発空間の留保
	海岸保全ライン (参考)



施設の整備状況 平成21年3月現在
取扱貨物量 平成20年 速報値



● 鹿島港湾・空港整備事務所

国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所